

社会道德の発見—古代エジプト古王国時代末・

第一中間期の思想—

吉成 薫

ギザの三人ピラミッドに象徴される、古王国の中央集権体制が崩れ、群雄割拠の時代に入った第一中間期、その後半の代表的文学作品である「メリカラー王への教訓」には、「社会道德の発見」という新しい価値観がもり込まれたとされる。その内容は「泣く者を泣き止ませ、未亡人を虐げず、人をその父の財産から遠ざけず、役人をその地位から追い払うな。誤って罰しないよう気をつけよ。」という件りから、「弱者への目配り」と要約することができよう。

こうした考え方がいつ、どのように生まれて来たか考察するとき想定されるのは、第一中間期前半、上エジプト各地に割拠した「州侯」が自分の支配地域でこうした考え方を発見し、一般化したという仮説である。しかし、代表的な「州侯」の墓に残された自伝碑文を読む限り、自らが有力で有能な施政者であるという主張には、自らの権力の誇示はあっても「弱者への目配り」と言えるものはほとんど見られなかった。

一方、古王国時代の第五王朝の役人の墓の碑文には、「メリカラー王への教訓」に見られる表現の先行形と言え言いまわしがあり、第六王朝の碑文にはより具体的な「弱者への目配り」の地域によって異なる事例が認められるのである。今後はこのような碑文の分布と変化を手がかりに、それが生まれた時代背景を探求して行きたい。

○文化史学科次回大会予告

日 時 平成14年12月14日(土)

13時30分～17時

会 場 昭和女子大学研究館

7階視聴覚教室

大会講演

研究発表

大谷津早苗、掛川典子
発表希望者はお申し出下さい

○入会案内

どなたでも入会できます。会費(109頁の会則参照)を納入して下さい。

① 日本文化史学科教授室(研究館5階)に持参していただくか、

② 郵便振替をご利用下さい

口座番号 ○〇二二〇一六一二四七四三

加入者名 昭和女子大学文化史学会